

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

今古奇観続書考

雙紅堂文庫所蔵『歡喜三續今古奇観』を中心に

Publication of the sequels of Jin Gu Qi Guan
Focusing on the Version Collected in Soukoudou Library of Tobunken

雙紅堂文庫所蔵の石印本『歡喜三續今古奇観』の实体は乾隆年間に創作された筆記志怪小説『無稽調語』である。19世紀末、小説の出版競争が激しさを増し、偽書や海賊版が数えきれないほど作られていた。こうした背景のもと、相互に独立した別個の小説を集めたものが「續今古奇観」という名を冠して次々に出版された。これらの今古奇観の続書の整理を通じて、その中の一つである『歡喜三續今古奇観』が成立した背景と出版の過程を分析し、「今古奇観」が小説の出版にどのような文体的意義を持っていたかを探る。



◆ 日 時 : 2015年 6月 18日 (木) 17:00-18:00

◆ 報告者 : 孫笛廬氏(中山大学 博士研究生)

◆ コメント : 大木康氏(東京大学 東洋文化研究所 教授)

◆ 会 場 : 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

